141 跛牂　重ねて縶有り
142 瘡雀　更に攣を加ふ
143 強ひて望む　垣牆の外
144 偸かに行く　戸牖の前

口語訳

137 蘭（藤袴）の花が萎みおちて芳しい香りがなくなるのを（都を去り太宰府の地に赴いて）初めて目の当たりにし
138 月が満ちるのを九度見た。（外界は今、九月を迎えたのである）。
139 何もないがらんとした部屋にいて貧しさにも慣れ
140 門は閉ざしたまま鍵をはずすのも億劫だ。
141 我が身は、片足が悪いうえにつながれて自由のない雌羊のようで
142 さらに、かさができたうえに体の自由が利かず、飛べない雀のようでもある
143 （そんな不自由な体ながら）無理やりにかきねの外を望み
144 人目を忍んで戸口や窓の前をうろついている。

語釈

137 ○蘭　…①キク科の多年草。茎・葉・花すべてにかすかな芳香があり、秋（八、九月）に紫色の花が咲く。フジバカマ。（『漢辞海』）